



(慶長10年黒田長政公建立)

岡田宮

貝原益軒書

創刊号

昭和60年10月吉日

発行 岡田宮社務所
北九州市八幡西区岡田町1番地

TEL621-1898
〒806

祝祭日には国旗を
掲げましょう

一日、十五日は神社に
参りましょう。

社報「岡田宮」創刊について

御健勝之段益々御慶び申し上げます。

さて此度、岡田宮では、社報「岡田宮」を発行する事になりました。

当宮は「古事記」「日本書紀」

「筑前国続風土記」等に記載されている古社でありまして、途中、何度か戦乱、争乱にまきこまれ、社殿の一部を焼失した事もありましたが、御神威は衰える事を知らず、益々御神徳を広め、現在に至るまで、氏子崇敬者に敬仰されています。

しかしながら、今後益々の御神徳の高揚をはかり、氏子崇敬者と、より一層つながりを強め、恩頼を仰ぎ

載き、惟神の道をひろめて行く為に、此度の社報「岡田宮」の発行と相成りました。どうぞ皆様方の御愛読の程を宜しく御願ひ致します。

岡田宮宮司 波多野直之

岡田宮権禰宜 岡本 正臣

岡田宮責任役員 上野 國雄

〃 〃 〃 加瀬 康一

〃 〃 〃 末益友之助

〃 〃 〃 江崎喜一郎

〃 〃 〃 杉野 保

〃 〃 〃 貫 豊輝

神宮式年遷宮

伝統のままに二十年毎に行われる式年遷宮祭は、宮遷しだけの目的でなく、遷宮祭を通じて、更に新しい大御光を仰ぎ、民族生命の更新をはかることにあります。

第六十一回式年遷宮は、昭和六十八年秋に行われる予定であります。皆さまの御協賛をお願いします。

岡田宮御祭神

① 中殿(岡田宮) 神武天皇(神日本磐礼彦命)

② 右殿(熊手宮) 大国主命 少名彦命

③ 左殿(八所宮) 高皇産靈神 生産靈神

神皇産靈神 御食津神

足産靈神 大宮姫命

玉留靈神 事代主命

岡田宮御由緒

古代洞海、菊竹ノ浜(貞元)に熊族が祖神を奉斎した地主神で「岡田ノ宮」と称す。

神武天皇、日向国より東征の途次本宮に詣り天神地祇(八所神)を親祭し、ここに一年留り給ふ由「古事記」にあり。

神功皇后、三韓征討の折熊手岬(皇后崎)に到り、当宮に詣り八所神を親祭す。

これを岡田ノ三宮と称し「天」「地」「人」三才に表し神輿を菊竹之水門にて蓬萊、方丈、瀛州(権内裏)三嶋に捧げ神事を奉行し、在庁官人等これを輔けて行粧厳重なりと伝えられています。

古来より当地は北九州における海陸路の要(洞海舟溜、皇后崎津、大宰府官道)に位置し皇室、公家武門、武将等の崇敬あつく、祭祀法度を定め社領十八所、末寺九坊と栄えたり。建久五年(一一九四年)征夷大將軍源頼朝の

家人、宇都宮上野介麻生重業、平家討伐の功により筑前国遠賀郡鞍手郡三千町歩を賜りし時、当宮の祭祀を波多野重満大輔藤原兼直に司せしむ。

慶長十年(一六〇五年)黒崎築城のさいに筑前六宿の起点となり、現在地御奉遷いたし、福岡藩祈年社、黒崎宿の産土神と定格され、皇后崎津の舟子を舟町(黒崎港)に移し、京阪舟便が定められ長崎街道参勤の九州大小名等の崇敬高く造営、社参奉幣等厚く、また上り下りの文人墨客等の来社数多く、現在は黒崎地域五十余町の産土神と敬仰されています。

古事記中巻

神倭伊波禮毘古命、其の伊呂兄五瀬命と二柱、高千穂宮に坐しまして譲りたまはく、何れの地に坐さばか、天下の政をば平けく聞看さむ。猶東のかたにこそ行でまされ、とのりたまひて、即ち日向より發たして、筑紫に幸行でましき。故れ豊國の宇沙に到りませる時に、其の土人名は宇沙都比古、宇沙都比賣二人、足一騰宮を作りて大御饗獻りき、其地より遷移らして、竺紫の岡田宮に一年坐しましき。亦其の國より上り幸でまして、阿岐國の多祁理宮に七年坐しましき。亦其の國より遷り上り幸でまして、吉備の高嶋宮に八年坐しましき。

岡田宮社家系譜

建久五年源右大將頼朝、家人宇都宮重業、平氏討伐の功により筑前國遠賀郡鞍手郡三千町歩を賜り相州八幡宮、信州諏訪大明神を供奉して下向其発祀を波多野兼直に司せしむ。

- 大祖
- 1 波多野兼直 2 兼時 3 兼氏
- 重満大輔 式部大輔 左工門介
- 4 兼家 5 兼行 6 兼知 7 兼見
- 右工門介 下総介 石見介 兵庫介
- 8 兼郷 9 兼頼 10 兼興 11 兼益
- 周防介 右工門大夫 左京大夫 兵部大夫
- 12 兼重 13 兼春 14 兼治 15 兼政
- 民部大夫 式部大夫 刑部大夫
- 万治二年
- 京師にて直を賜る
- 高祖
- 16 直守 17 直治 18 直行 19 直知
- 内記 初負 出羽守
- 20 直清 21 直元 22 直信 23 直道
- 讃岐守 内藏介 左京 大学頭
- 24 直恒 25 直憲 26 直定 27 直繩
- 右京 監物 讃岐守 駿河守
- 28 直足 29 直友 30 直秀 31 直人
- 安芸守 主水正(正度) (格)
- 32 直之

神棚のまつり方

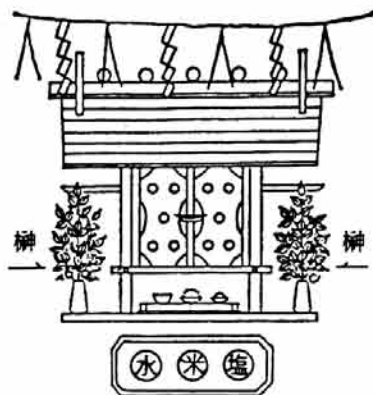
●家庭の神棚の位置

神棚は一家の中心でありますから、清浄な親しみやすい処に南向き又は東向きに設け、伊勢の天照皇大神宮の大麻、氏神様その他日頃信仰する神社の御神札を毎年正月新しくお受けしてお祀りします。

●神座の順位

お札を横に並べてまつる時は中央に天照皇大神宮の大麻、向って右に氏神社、左にその他の神社の御神札を奉安します。お宮形が小さいときは、表に神宮大麻次に氏神社、その次に他の神社の御神札の順に重ねて御まつります。つまり天照皇大神宮の大麻が表面になるように奉安します。

先祖の霊壇は神棚より少し下ったところに設けます。また同じ神棚にまつる際は霊璽を霊筥に納め向って左にまつります。



●お飾りの仕方

神棚の中央正面に神鏡、左右にお神や燈明具等を立てます。

しめ縄はねり始めの方を向って右に、細い末の方を向って左の方にして懸けます。

●神饌の供え方

毎朝のお供物は、米と塩と水の三品が普通です。これを三方か折敷(縁にとじ目のある方を手前に向けます)にのせてお供えます。

このほかに珍しいものや、四季の初ものなどその他免状、辞令、俵給など、まず神前にお供えて共によるこんでいただき、新しい努力をお誓いするようにいたします。

また毎月一日や十五日、神宮や氏神様の祭日、国や郷土の祝祭日、節句そのほか家庭の行事日等には、分に応じて御酒や海川山野の物をととのえ、或は料理をし或は生のままで、清らかな器に美しく盛ってお供えます。後で下げして一家揃って楽しく領ちいただきます。これは神様のお恵みを我が身にいただく行事で直会(なおりい)と申します。

お供えを盛った三方の台数が多い時はその数が奇数か偶数かにより次の図のようにお供えます。お供物の順序は品数により次の通りです。



郷土地名考 ①

黒崎

藩政期には黒崎の地名は広狭両様に用いられている。慶長期に井上周防之房が磯辺山に築城し、黒崎城と呼び、城山を黒崎とも称した。黒崎は城山南麓のホノケという。旧殿町地主社附近、現舟町五番の北端附近である。黒崎城に伴い設けられた山下町を黒崎と呼び、更に、宿駅をも黒崎宿とした。黒崎宿は藤田村と熊手村よりなる。城破後は宿駅・船町を含む惣名としても用いられて来る。狭義には田町を意味することもある。黒崎宿庄屋Ⅱ田町庄屋である。

黒崎の語義については、旧前より、日本武尊が大渡川(洞海湾)を通過される時、「穴暗海河哉」と言われたことより海を暗崎と称したといひ、それが転じて黒崎となったという説及び、隅崎の地名が転訛したという説がある。黒崎の地名は北海道を除く全国に分布する。試みに、平凡社「世界大百科事典 日本地図」より黒崎の地名を拾うと第9図となる。近くでは、遠賀郡岡垣町波津や福岡市東区名島や志賀島にもある。これ等は、奈良県の一六五号線沿いの黒崎(くろさき)、及び、新潟県中之口川畔の黒崎を除いては、すべて海岸にある。このことよりして、黒崎はクロ十サキといえる。クロは畔・壠にて「水ぎわ、岸、小高い所」、サキは岬である。即ち、「水ぎわの岬」、「水ぎわの岬の小高い所」などの意であろう。

年末年始の行事案内

十二月三十一日午後十一時に半年間の罪穢を祓う大祓式を、又一月一日より七日まで特別祈願祭を執り行ないます。新年が良き年であります様には是非御参拝下さいませ様、御案内申し上げます。

そして一月一日より七日まで旧年の古神札、古守を、一月十五日のどんど焼祭にはメ飾、門松等を納めますので、持って来て下さい。

年中行事案内

- 歳旦祭 一月一日
- 特別祈願祭 一月一〜七日
- どんど焼祭 一月十五日
- 成人奉告祭 一月十五日
- 厄除大祭 二月節分日
- 初午祭 二月初午日
- 建国祭 二月十一日
- 春季霊祭 三月春分日
- 春祭 四月三日
- 祇園祭 七月二十一〜三日
- 夏越祭 七月二十九日
- 祖霊祭 八月十五日
- 秋季霊祭 九月初分日

毎日のご祈願

- 放生祭 九月二十四〜五日
- 例大祭 十月十八〜九日
- 七五三祭 十一月中
- 大祓 十二月三十一日

- 初宮詣
- 七五三詣
- 学業成就祈願
- 神前結婚式
- 安産祈願
- 厄除開運祈願
- 算賀祭(還暦、古希等)
- 交通安全祈願(車のお祓)
- 商売繁昌祈願
- 家内安全祈願
- 会社安全祈願
- 方位除祈願
- 他諸祈願

毎日の外祭

- 地鎮祭 上棟祭
- 神葬祭 井戸祓
- 開店祓 家祓
- 落成竣工祭
- 安全祈願祭 他諸祈願

昭和六十一年の年祝

- 七五三(男女共)
- 三才 昭和五十九年生
- 五才 昭和五十七年生
- 七才 昭和五十五年生

- 厄年(男)
- 二十四才 前厄 昭和三十八年生
- 二十五才 大厄 三十七年生
- 二十六才 後厄 三十六年生
- 四十一才 前厄 二十一年生
- 四十二才 大厄 二十年生
- 四十三才 後厄 十九年生
- 六十才 前厄 二年生
- 六十一才 大厄 大正十五年生
- 六十二才 後厄 十四年生

- 厄年(女)
- 十八才 前厄 昭和四十四年生
- 十九才 大厄 四十三年生
- 二十才 後厄 四十二年生
- 三十二才 前厄 三十年生
- 三十三才 大厄 二十九年生
- 三十四才 後厄 二十八年生
- 三十六才 前厄 二十六年生
- 三十七才 大厄 二十五年生
- 三十八才 後厄 二十四年生

算賀祭(男女共)

- 六十一才 還暦 大正十五年生
 - 七十才 古希 六年生
 - 七十七才 喜寿 明治四十三年生
 - 八十才 傘寿 四十年生
 - 八十八才 米寿 三十二年生
 - 九十才 卒寿 三十年生
 - 九十九才 白寿 二十一年生
- ※年齢はかぞえ年です。

編集後記

御陰様を以ちまして、社報「岡田宮」創刊号を、無事書き終へました。正月には恒例の「福餅」を一月一日午前〇時より先着順で五百個配りますので早めにお参り下さい。よいお年でありますように。

拍手二つ

岡田宮社務所

(TEL六二二一八八九)